

平成 30 年教育福祉委員会会議録

1. 招集年月日 平成 30 年 8 月 10 日
2. 招集の場所 可児市役所 5 階第 1 委員会室
3. 開 会 平成 30 年 8 月 10 日 午後 1 時 54 分 委員長宣告

4. 審 査 事 項

1 報告事項

- (1) 子育て支援政策経費について
- (2) こども発達連携支援事業について

2 協議事項

- (1) 委員会代表質問について
- (2) 今後の委員会の進め方について

5. 出席委員 (7名)

委 員 長	田 原 理 香	副 委 員 長	勝 野 正 規
委 員	林 則 夫	委 員	富 田 牧 子
委 員	山 田 喜 弘	委 員	川 合 敏 己
委 員	天 羽 良 明		

6. 欠席委員 なし

7. 説明のため出席した者の職氏名

こども健康部長	井 上 さよ子	子育て支援課長	尾 関 邦 彦
---------	---------	---------	---------

8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	田 上 元 一	議会事務局 議会総務課長	梅 田 浩 二
議会事務局 書 記	服 部 賢 介	議会事務局 書 記	山 口 紀 子

○委員長（田原理香君） ちょっと時間は早いですけれど、皆さんおそろいですので、ただいまから教育福祉委員会を開会いたしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

初めての委員長です。行き届かないところもあるかと思いますが、どうか皆さん、御協力どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、発言される方は、委員の方も執行部の方も挙手をして、委員長の許可を得てからお願いいたします。また、マイクのスイッチを入れてからお話してください。

さて、初めに報告事項1. 子育て支援政策経費についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

○子育て支援課長（尾関邦彦君） よろしくお願いいたします。

それでは、重点事業点検報告書に基づきまして、御説明をさせていただきたいと思います。ページは19ページになります。

子育て支援政策経費ということで、新規事業ということで上げさせていただいておりますけれども、事業の移管や統合によるものが大半でございまして、決算額ベースでは、99%は既存事業を引き継いだものということになっております。

それで、目指す事業の成果ということで、manoが建設されるという平成29年度でございまして、運営体制の確立のための準備ということ、それから子育て支援のためのボランティア、市民団体の育成といったところを目指して進めてまいりました。

実施結果としましては、大きく2つお示ししております。

1つ目の丸印が子育て健康プラザに関する管理運営の仕組みづくりということで、これは当然ですけれども、新規に取り組みをさせていただいております。子育て健康プラザの運営に向けまして、レストランを初めとしました民間運営事業者の決定や運営の仕組みの検討、関係部署との調整を行いました。

2つ目の丸印ですけれども、市民活動の支援・育成ということで、子育てボランティアの育成、それからファミリー・サポート・センターの運営、そういったものに関するさまざまな講習会、講座の実施を行っております。また、ここには記載ございませんけれども、子育て支援センターを運営されている保育園の補助金交付なども行っております。

この中で、平成29年度に新規に取り組んだものとして、黒いちょぼの2つ目ですけれども、子どもの健やかな育ち応援活動助成金ということで行いました。子育て世代のきずなづくりや、特別な支援を必要とする子育て家庭などを支援する市民活動に対しまして補助金を交付するものでございます。具体的には、子ども食堂や子育てサロンの活動ということで4団体から申請がございまして、審査の結果、補助金を交付しております。

補助金につきましては、対象経費の4分の3が上限で12万円ということになっておりますけれども、平成29年度は年度途中からということでございましたので、上限8万円ということで実施しております。

続きまして、前年度への課題、取り組み・進捗状況でございますけれども、ファミリー・

サポート・センターのサポート会員のスキルアップということで、安全確保という点から救命講習の開催を行って、安全をより向上させるということに努めております。

それから、2つ目のちょぼにありますけれども、先ほど補助金を交付すると言っておりました子育て支援センター、4カ所目が可児さくら保育園にことしの4月から開設されたわけですが、開設に当たりまして相談や見守りを行っております絆る〜む、そういったところを見学していただくということで開設支援を行いまして、無事に開設をしていただいたところでございます。

それから、ちょぼの3つ目ですけれども、コモンセンスペアレンティングと、ちょっと横文字ですけれども、これは子育てを行う保護者が効果的なしつけの方法を学んでいただいて、積極的に子育てに取り組むということを手助けする手法の一つでございますけれども、平成28年度から講座を進めております。

上級資格者、指導者資格の取得ということですが、これまで外部から講師を招いて講座をやっておりましたけれども、この研修を受けていただいた方が資格を取得されることで、地域の方が、また地域の方へ向けて講座を実施できるというような仕組みになっておりますので、そういった形で取得の推進に取り組んでいるところでございます。

次に、指標ということで表が出ておりますけれども、ここでは子育てボランティアの登録者数ということですが、子育てピアサポーターという名称を使っておりますが、その登録人数を上げてございます。平成29年度までは開館前ということで、具体的な活動がない状態で募集とか研修を繰り返しておりましたので、若干、頭打ちというような数字的にはなっておりますけれども、オープン後に少しずつ活動をスタートさせておまして、またその活動の広がりによりまして参加者をふやしていきたいというふうに考えております。

その下に財源内訳ということで出ております。

国・県支出金につきましては、子育て支援センターへの補助金ということでございます。その他につきましては寄附金ということでございます。

結果分析につきましては、いろいろ幾つか書いておりますけれども、manoという施設が整いましたので、子育て支援に力を入れているまちであるということは目に見える形でPRができておりますので、そういった中で、その中に関係部署が一堂に集まりましたので、ソフト面でも地域を支援しているよということを、より広げていきたいということを考えておりますので、地域で支援をされている方たちとの連携を深めながら、そういった取り組みを広くしていただくということで進めていきたいというふうに考えております。

少し書いてありますけれども、その支援を受けてみえる方が将来支援をしていただくような立場に、順番につながっていけばなあというふうには考えております。以上でございます。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

これより質疑を行います。

○委員（山田喜弘君） 新規事業で平成29年度決算は2,800万円ですが、今、冒頭の説明では既存の事業を99%持ってきたと言われているので、その辺の関係というのは、金

額というのは出ますか。

○子育て支援課長（尾関邦彦君） 今お話ししましたように、いろんな事業から来ておりますので、そういったものを項目ごとで集めていきますと、実質的に前年度対比で644万円ほど増額ということになっております。

主な要因としましては、先ほど御説明しました、新たに子育て支援センターが可児さくら保育園に開設されたという話をしましたけれども、開設準備の補助金が400万円、それから1年前に開設されましたはぐみの森保育園で、そういったところが活動がスタートしたことによる増額分、これが96万円ほどですけれども、ということで、500万円近くが補助金による増というようになっています。以上です。

○委員長（田原理香君） ほかに発言ございませんでしょうか。

○委員（天羽良明君） 助成件数4団体というのはm a n oでの新しい団体なのか、それともこの4つの中で、どれかは今まで地域のほうでやってみえる団体を助成するようにしたのか。

○子育て支援課長（尾関邦彦君） こちらにつきましては、m a n oということではなくて市内で活動してみえる団体への補助金ということです。実際には、桜ヶ丘の子ども食堂さん、それから姫治の子ども食堂さん、それから川合の子ども食堂さん、それから子育てサロンは下恵土を中心にやってみえますけれども、その4団体ということになります。以上です。

○委員長（田原理香君） ほかに、発言ございませんでしょうか。

〔挙手する者なし〕

それでは、1つお伺いしてもよろしいでしょうか。私から1つだけ、ちょっとお聞きしたいです。

子育てのボランティア登録者数が、平成30年度は120人ということで目標が書いてありますけれども、こういうボランティアの登録をされた方は、例えば今のm a n oにおかれましては、ボランティアの方はどういうところで活動されているのでしょうか。

○子育て支援課長（尾関邦彦君） 今のボランティア、子育てピアサポーターと呼んでおりますけれども、今、68名登録いただいておりますけれども、m a n oオープン後に、いろいろどんなことができるかというようなことも相談していただきまして、今のところ4つ、1つは絵本の読み聞かせということで、絆る〜むにおきまして絵本の読み聞かせを行われました。6月、7月で4回ほど、延べ32名の方に参加いただきました。

それから、みんなの書齋というところがございますけれども、そういったところの本の整理であるとか、子供さんに本を、来館されている方にお薦めしたりとか、今後はもう少しわかりやすいような何か、ポップといいますか、そういう掲示をしていくとか、そんなような活動を主体ということで、本の管理をしてみえる方がございまして、これが6月、7月で2回実施していただいて、延べ18名の方に参加いただきました。

それから、中央児童センターがございましてけれども、そちらのほうで特に午後以降、夜間にかけて3時以降の子供さんを見守ったり、少し一緒に遊んだりというようなことのサポートをしていただくということで、6月、7月で延べ47名の方に御参加をいただきました。

その他の見守りとしまして、夏休み期間中、子供の居場所ということで少し勉強するスペースも研修会議室を開放してやっておりますけれども、そういったところの見守りとか、館内も含めてですけど、やっていただいております。それが7月、夏休みに入ってからですけど、28名ほど今までに参加をいただいております。そのような形で、活動を今していただいております。以上です。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

ほかに発言ございませんでしょうか。

[挙手する者なし]

発言もないようですので、この件に関しては終了いたしたいと思います。

引き続きまして、こども発達連携支援事業についてを議題といたしたいと思います。

執行部の説明を求めます。

○子育て支援課長（尾関邦彦君） それでは、資料の28ページのほうをお願いしたいと思います。

こども発達連携支援事業でございます。

こちらにつきましては、市内の子供さん全てが安心・安定した環境で過ごせるようにということで、早期の支援、それから保護者への適切な支援、それから幼児期から学童期へつなぐ支援を大切にしまして、健やかな子供の育ちを支えるということを目指しております。

事業の実施結果のほうの丸の1つ目にも関連いたしますけれども、こちらにつきましては、くれよんで行ってございました相談業務を引き継ぎながら、新たな体制整備を行いまして事業を開始したところでございます。こども応援センターばあむという名称でございまして、平成29年度は2名の臨床心理士、割愛教員、発達相談員の4人の体制でスタートをしたところでございます。

2つ目の丸の黒いちょぼの3点目でございますけれども、関係機関との連携を図るということで、各幼稚園、保育園の窓口役となる発達支援コーディネーターという方を各園1名ずつ選出いただきまして、そういった方には、市の取り組みの紹介であるとか発達に関する情報提供、研修などを行いまして、全市的な理解と知識の向上を目指しております。

平成29年度は、22園のうち18園に参加をいただいたところでございます。また、その会議につきましては5回開催させていただきまして、発達の気になるお子さんの理解と対応を学ぶ研修などを中心に実施したところでございます。

それから、丸の3つ目、乳幼児発達・教育のところでございますけれども、それぞれそこにありますように相談を受けております。また、プロフィールブック配付ということで、可児市版プロフィールブックというものを作成し、配付をしたところでございます。これにつきましては、これまでくれよん利用者を対象に配付していたものがありましたが、新たに作成しまして全市的に配付をすることとしました。

それから、4つ目の丸印の園支援としまして、相談を待っているのではなくて、こちらから訪問していき相談を受けるというような形で、年中児相談というものを実施しております。

数字的にはそちらにあるようでございますけれども、保護者からの面談など、予想以上の申し込みをいただいたところでございます。

以下、その次が要支援児童等の就学支援ということで、学校へのつなぐということで、教員もおりますのでそういった学校との連携強化ということで、そこに出ておりますような見学会やら説明会などを開催しております。

それから、その下がキッズクラブ観察訪問ということで、キッズクラブの指導員の方たちのサポートであるとか、そういったようなところをさせていただいております。

研修事業等につきましては、そこに出ておるような数字になっております。

前年度の課題、これは新規事業ということで、ここはないということでございます。

指標につきましても、参考指標ということで相談件数について上げてあります。

それから、財源につきましては323万7,000円ということですが、これは臨床心理士の報酬がほとんどでございます。

最後の結果分析というところでございますけれども、発達支援コーディネーター会議ということで22園のうち18園に参加していただいておりますけれども、まだ参加いただいていないところもございます。これは強制するわけにはいきませんので、御協力いただけたところに協力いただきながら、そこにまた年中児相談というのにお邪魔するような流れになっておりますけれども、そういったところを少しでも拾い上げていけるようなことが必要ということでございまして、改善点のところがございますけれども、発達コーディネーター会議への参加の促進をする。あるいは、市全体の研修会なんかには、発達支援コーディネーター会議に参加、不参加をかかわらず御案内をさせていただきながら、少しでも関心を持っていただくようなことに努めていきながら進めております。

また、学校との関係につきましては非常に大切なことでございますので、今後も重点的に取り組みを進めていきたいと思っておりますけれども、いろいろ試行錯誤しながら現在もやっているような状況でございます。この事業につきましては以上です。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

これより質疑を行います。

○委員（川合敏己君） 御説明ありがとうございます。

今、子供の発達については1歳半の部分と、あと3歳児のときでしたっけ、やってきました。新たに保育園の年中さんに対してアンケートを送られている。これは、ずっと以前からやっていたらっしたんでしたっけ。これは新たにスタートしたものでございますね。ここに書かれている683人に発達アンケートを実施し、保護者面談が109件実施されたということで、3歳までに親子療養等必要な部分が、この年中さんへのアンケートでさらにそういった対象の方が、新たにそういう支援をしなければいけない方というのが、見つかったという言葉が適切かどうかわかりませんが、いらっしたのかどうかということをやっと改めてお聞かせいただければありがたいと思います。

○子育て支援課長（尾関邦彦君） それぞれ健診のときにも気になる方を、お子さんなどを見

ながら相談を受けておりますけれども、なかなか時間的に1回であるとか、それからふだんの行動が見られないとか、そういったような健診時期でありますので、園のほうにお伺いしていくと、やはりふだんの行動であるとか活動といったものを見ながら、お母さん方の相談の内容も聞きながらということが出来ますので、そういった点では、3歳児健診までで見えなかった部分、そういったものも多数上がってきております。

○**子ども健康部長（井上さよ子君）** 今、子育て支援課長に補足でございますけれども、川合委員の御指摘のとおり、3歳児健診までを見ておりました。でも、3歳児健診までは、やはり知的な関心の面を主に見る形になります。

課長が申しあげましたように、集団場面での日常の生活行動までを確認する機会とは、年齢的にも場面的にも難しいところがございます。それが、やはり4歳児、5歳児という年齢の時期、そして園という集団の場面でコミュニケーションをとりながら集団の中で成長していく過程の場面を確認する。それは、保護者のアンケート、それから担任の先生のアンケート、そういった多方面からと、現場の場面を見るということを加えた年中児相談という事業の形をとりました結果、御質問がありました部分においては、療育に新たに7名結びつけたというふうな形がございます。以上です。

○**委員（川合敏己君）** 本当によかったと思います。ありがとうございます。

○**委員（富田牧子君）** 済みません。幼稚園、保育園での部分はわかったんですが、就園していない子供の部分というのが少しはあって、そういうところ辺での実際に発達がどうかというところ、なかなかつかめないと思うんですけど、そこについては何らかの手を打たれてやってみえるでしょうか。

○**子ども健康部長（井上さよ子君）** 御指摘のとおり、やはり就園していない子供さんをどう把握するかは、まだいまだに課題でもございますけれども、順番に体制を整えておまして、まず民間の事業所のみに行っていってらっしゃって、就園はしないで民間の療育の事業所に行っていってらっしゃるお子さんがいないかということで、通所支援の事業所さんと連携をとって情報のやりとりをしておるのが1点と、それから、やはり就園しておられない方は外国人コミュニティーの中で幼児期を過ごされているという方が多くございますので、そちらの国際交流協会であったり、フィリピン系のお子様を預かっていらっしゃるところとの連携であったり、そういったところの場面にコンタクトをとりながら、どんなふうな年長期をお過ごしですかというようなお尋ねをするような形でやっておりますし、あと保健センターとも当然連携をとっておりますので、ずっと予防接種ができていないとか、そういった方向からのルートで見えてきておるところの過程と結びつける等、いろいろ四方八方にネットワークを持ちながら確認を始めまして、大分進めてきているところでございます。

○**委員（山田喜弘君）** 先ほどの発達支援コーディネーター会議、強制ではないという話ですが、参加できないところの園というのは、どのような事情で参加ができないということでしょうか。

○**子ども健康部長（井上さよ子君）** 参加をされていないところは、やっぱり小規模保育所で

該当の年齢、そこまでの発達を確認するに、まだ過渡期で小さい時期であるので、今の段階ではそこまでの年齢のお子さんはいらっしゃらないのではという園がございますのと、あとは事例があったら相談をさせていただきというふうなところで、まだ人を定期的に参加してという体制まではちょっととりにくいというような、そんな形でいらっしゃるところでございます。

○委員（山田喜弘君）　ちなみに、これは園のどなたが参加することになっているか。

○こども健康部長（井上さよ子君）　それは園にお任せをしておりますが、ぱあむとの窓口役をしていただき、そして研修等出てきていただいたものをほかの園の先生方に伝えていただく経験であったりお力であったり、そういった要素を備えていらっしゃる方をできれば推薦してくださいというふうで園にお任せします。そういう形ですと、中堅どころ以上の先生が大体出てきていらっしゃるという状況です。

○委員（山田喜弘君）　出てくるのはお一人ですか。

○子育て支援課長（尾関邦彦君）　一応、代表ということでお一人選出していただいております。

○委員長（田原理香君）　ほかに発言はございませんでしょうか。

〔挙手する者なし〕

それでは、発言もないようですので、この件に関しては終了いたします。

ここで議事の都合により暫時休憩いたします。以降の議事については委員のみで行いますので、執行部の皆さんは御退席いただいて結構です。ありがとうございました。

休憩　午後2時22分

再開　午後2時24分

○委員長（田原理香君）　それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

協議事項、委員会代表質問についてを議題としたいと思います。

教育福祉委員会として質問すべき案件について、何かございましたら御意見をお願いいたします。

○委員（富田牧子君）　済みません。ことしの本当にひどい酷暑で、プールもないような状況の中で、私は、この前6月のときに質問をしたのは、特別教室にもクーラーを設置してほしいという小・中学校の話でしたけど、実は、保育園も全室にはクーラーが備わってなくて、例えば1園に3台とか、そんなことになっているので、私は、ぜひ来年に向けて学校の特別教室、それから保育園の全室、幼稚園も全室、できれば民間の幼稚園の状況も見て、それに補助なんか出してあげて、ぜひクーラーを設置するというところを取り上げていただいて、質問していただければというふうに思います。

○委員長（田原理香君）　ありがとうございます。

クーラーを設置するというところを代表質問に取り上げてはということで富田委員からの御意見でしたが、ほかの皆さんはいかがでしょう。

○副委員長（勝野正規君） 今、富田委員が言われたとおりで、これから市のほうは予算編成に入っていくので、平成 31 年度の、もう代表質問でいくのならいつでしょうと言ったら今でしょうと、もうここしかないかと思っていますので、12 月とか来年度という話じゃなくて、もうこの9月議会、代表質問するならこの時期だと私も思います。

○委員長（田原理香君） 今、勝野副委員長から、今でしょうというところで予算を合わせると9月じゃないかという御意見が出ましたが、ほかの皆さん、御意見いかがでしょうか。

○委員（川合敏己君） 現状どうなっているかというのは、逆にこれまで一般質問されたりとかという中において、この委員会の中では何か調査されていらっしゃったんですかね。そういうものがあってやるということであれば、まあ確かに、時期的に9月代表質問で間に合いますか。そこら辺をきちんと調査研究というんですか、現状把握も含めてやっていて準備ができているのであれば、もちろん代表質問という形でやっていくことは可能かなあとは思いますが、ちょっと済みません、去年まで所属しておりませんでしたので、その点ちょっと教えていただけるとありがたいです。

○委員（富田牧子君） この前、私が質問したときは小・中学校の特別教室の話でやりまして、特に図書館にお願いしたいという話でしたけど、結局、小学校、中学校大規模改修でそのときにつけるということだけだったので、小学校は8校と言われましたよね、それは図書館のみの話ですね。

それから、蘇南中の音楽室は大規模改修でつけてあると、でもよその中学校の音楽室はないというふうなことで、あとパソコン室は多分あると思うんですね。一番最初的时候に、職員室とパソコン室はついたはずなので、一般教室がつかない前にそういうふうには思っていますけど。

去年、山田委員も質問されて、特に先生の労働環境の話で特別教室のエアコンについては質問されたと思うんですけど、私、自分のところのお嫁さんが中学で音楽を教えているんですけど、本当に夏は暑くて、音楽室では授業ができないということでキーボードを持ってエアコンのついている部屋でとにかく授業をしているという、それは愛知県の阿久比町の話なんですけれども、そういうことで、本当に特別教室に要らないということは絶対ないと思うんです。

それから、全部の保育園について調べてはありませんけど、めぐみ保育園ではホールに1つ、それから職員室と未満児室にはついているということで、3歳児、4歳児、5歳児の部屋にはついておりません。隣のくれよんには全室ついている。そこまでは調べました。以上です。

○委員（川合敏己君） ありがとうございます。

一般質問された中で多分調べられた、その情報はあるんですけど、多分、全市的に保育園、私立園も含めたという話でしたので、そういったことも含めると、ちょっとそこら辺をきちんと調査研究をしてからやるということも、僕は必要なかなあというふうにはちょっと思いましたものですから、決してやっちゃいけないとかそういうことではなくて、それが時間

的にどうなのかなあ。例えば、そういった部分を執行部のほうにちょっと報告をさせた中で、それはやっぱり、これはちょっとということであれば代表質問という流れにもなるのかもしれない。

ただ、この9月議会で間に合わせたいけれども、間に合わないケースだってやっぱりあると思うんですね。ちょっとそこら辺は、皆さんと協議して進めなければいけないのかなあというふうには思います。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

この件について御意見ございます方、いらっしゃいますでしょうか。

○委員（山田喜弘君） ぜひ、ほかの教室もつけていただきたいんですけども、学校によっては特別教室の場所にもよって、一遍につけばそれはそれでいいんですけども、順番につけていただきたいという、どここの中学校は例えば理科室が最初で、次に音楽室をつけてもらいたいとか、ここの小学校は先に音楽教室をつけてもらいたいとか、理科室につけてもらいたいとか、そういう要望もあるので、そういうことも踏まえて、今、川合委員が言われたように、きちんと現場の御意見とかを把握して、それでつけてもらいたい、できるだけ早くつけてもらいたいというような形で代表質問をしていただければというふうに、この9月に間に合うのがベストですけど、予算編成時期が始まりますので。ですけど、どうしてもできなければ12月でも、当然、実施設計して金額も把握しながら予算措置も考えていかなければならないと思いますので、その辺をちょっと委員の皆さんで共通の理解を得てからのほうがいいというふうに思うんですけど。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

○委員（富田牧子君） 私は、本当にことしの夏は暑かった、だから今質問すべきだというふうに思います。12月というのもわからないでもないですけど、何かもう暑さが遠のいちゃって、涼しいとか寒いですよ。12月に、やっぱりぴんどこないとか、そこら辺が、迫り方がきつとぬると思う。

本当にことしはみんな困っているわけですから、もうクーラーを使ってくださいと政府のほうでもどんどん、国のほうでもそうやって言っているわけですから、やっぱりこの機にぜひつけて。どこを先とか、そんな話はそれぞれの学校で考えていただくとか、2つつけるか3つつけるかとか、そんなことは細かいことであって、私たちがそこまで考えることはない。

私たちが考えるのは、やっぱり本当についていない特別教室、それから保育園のついていないところ、そこに絶対につけてほしいということで、まず来年もうつけるという、そういうことを質問の答えとしていただくというのが一番だというふうに思います。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

今、2つの意見が出ております。

1つは、とにかく暑い今、暑いということを実感している中の9月議会で、ついていないところとにかくつけるべきだということで質問をしていく、お願いをしていくということが1つ。そしてもう一つは、きちとやはり現場の意見をもう一回、代表質問ということ

であれば、委員会ということでやる以上、やはり調査研究をしっかりと、現場の意見をしっかりと聞いた上で代表質問をしていくということと、2つ御意見がございましたが、天羽委員、林委員はどのような御意見でしょうか。

林委員、お願いします。

○委員（林 則夫君） 御指名をいただきましたので。

実は、以前からそういう要望というか声は聞いておりましたので、校長会のほうで、一般教室は大体設置されておりますよね。各特別教室で、それぞれの学校の校舎の建て方によって格別暑いところがあるかもしれんから、そういうところは校長会で一遍、優先順位というのか、そういうものをやるようにということを僕は数年前からそれを言うておるんですが、ことしは特に暑いわけですが、そのために国・県の補助をとれるような形をとっていく必要がありますので、委員会として意見をまとめた上で、代表して質問するということはやったほうがいいと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

○委員長（田原理香君） それは、この9月にということでしょうか。

○委員（林 則夫君） もちろんそうです。9月に。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

それでは天羽委員、お願いします。

○委員（天羽良明君） そうですね、質問する時期はやっぱり早いほうがいいとは思いますが。

今、川合委員が言われたような情報というものが代表質問の締め切りに間に合うのであれば、一番、本当は現状把握ですね、学校に調査を執行部の方がしてくれるのか、それとも我々委員で聞けるところだけ聞いてくるということでも、情報としては有効な情報になるかと思えますもので、代表質問の締め切りまでにどこまでの何を情報として持っておくかということが、この委員会で皆さんが納得できるところが、線が引ければ、そこに向かって努力だけはしてもいいんじゃないかなあというふうに思います。

あとは、やっぱり林委員が言われたような、財源をどうするかということも同時進行で準備していかないかなあというふうに思いますので、そういうのはやっぱり質問という形で執行部の考えなんかも明るみになっていけば、市民の皆さんも一番注目しておることだとは思っておりますので、質問することはいいことだと思います。

○委員長（田原理香君） 今、締め切りの話が出ましたが、たしか締め切りは8月21日、大項目は8月13日月曜日で、あと代表質問の締め切りが8月21日ですね。

今、最後、天羽委員の懸念されているところを、できるだけ情報を執行部側に、私どもでできるところを調査していく、調べていくということにおきまして、どうでしょうか。

○委員（川合敏己君） 結局、代表質問というのは、やっぱり皆さんの合意がないとなかなか難しい部分があると思うんですね。ですので、大項目としては8月13日月曜日ですので、今度の月曜日ですよね。あと8月21日には、遅くとも11時前には代表質問の内容を提出しなきゃいけないということになっていきますので、その間に皆さんと協議しながら内容をやっぱり決めていかないといけないんじゃないかなあと思うんですが、それが皆さん、できるか

どうかというところもちょっと。

というか、まず情報自体がまだこれから集めていかなきゃいけないということですので、ちょっとどうですかね。

○委員（富田牧子君） 情報を集めると言うけど、ちゃんと学校は持っているわけです。この間、6月議会のときにちゃんと言ったわけだから、どこどこについているという、名前までは言いませんでしたけど、8校の図書室についているという。

だから、学校ごとにどれだけについているか、例えば特別教室にどれだけについているかということはもちろん把握しているから、出せと言えば出てくるというふうに思いますし、保育園はこども課が管理をしているわけですから、こども課に聞けば出てくるわけですね。

民間のところは、もしわからなかったらそれはまあ仕方がないかもわかりません。だけど、公立についてはちゃんと執行部側で資料を持っているから出てくるはずですので、それは問題ないんじゃないかと思います。

民間も多分、大規模改修のときに結構お金が出て、どこだったか幼稚園はついてるという話も聞いたことがありますし、それも大規模改修をやったところについてはわかると思うんですね、民間もね。

○委員（川合敏己君） そういう情報がそろうのであれば、やらん手はないかもしれないと思いますけれども、ただそれにしても、ちょっと皆さんで内容的なものを、まず大項目質問と、あと詳細質問というのちょっと考えていかなければいけませんので、そういった協議というのは必ずこの期間中には出てくるものではないかなあというふうに思いますので、そういう時間的な制約の中で皆さんが協力してやっていけるのであれば、それはそれでいいと思います。やっちゃいけないとかそういうことではなくて、これはやっぱりみんなの合意の中でのことなので。

○委員長（田原理香君） そうですね。代表質問は、一応ここの皆さん、委員の方が全員一致ということで、やりますということで初めてできるものですので、今、川合委員の御指摘のように、それまでに大項目はもちろん、質問の内容もそういう会を設けてできるかということがここで諮れるかですかね。

○委員（富田牧子君） この前、2学期制については、確かに2学期制のところを2カ所見に行って、それでその後、それぞれがどういうところが問題とかいろいろ聞きたいところを出して、それで委員長が代表質問をいたしました。

でも、そのときは質問を、こういうことを聞いてほしいとかいうのを出して、まとめるのは委員長が全部やったわけです、はっきり言えばね。だから、これは私は委員長にお任せして、2学期制よりうんと簡単な話なので、これって全く。それで、国の動向がもしわかればそこに入れ込んで、国はこういうふうだけど、ぜひつけてほしいと、金も出そうだよとかいう話とかしてもらえばいいので。そんな何回も集まらなきゃいかん、自分の一般質問も書けないのにそれに来なきゃいけないとか、そんなことはないと思いますけど。

○委員長（田原理香君） ちょっと暫時休憩させていただいてよろしいでしょうか。

休憩 午後2時42分

再開 午後2時59分

○委員長（田原理香君） それでは、暫時休憩を解きます。

今、さまざまな御意見をいただいておりますが、やはり情報をしっかり集めて、調べて、そして具体的に委員会、質疑等を通して、状況をしっかりと執行部から引き出すことが必要です。

それで特に、具体的には9月議会の中で提言を出すということと、それからこれを所管事務調査とするということも考えられると思いますが、教育福祉委員会として冷房設置のことということにおきましては、こういった所管事務調査をするということ、それから提言を出していくということにおきましては、皆さん御意見はいかがでしょうか。

○委員（川合敏己君） 予算決算委員会の分科会の中で、まずは9月議会の中で提言を出しておきながら、一方でこちら、代表質問に向けてしっかりと裏づけをとりながら、そして時期的には12月議会になってしまうかもしれませんが、そこで予算決算委員会に出した提言にかぶせるように、どうだということでも代表質問されてもいいのかなあというふうには思います。

もちろん、この9月で、とりあえずある情報で一般質問される方ももちろんいらっしゃるかもしれないけれども、まずは委員会として取り組むにはそういった段取りでいったほうが無理もないし、いわゆる論拠を持って執行部に対して迫っていけると思いますので、そのほうが執行部のほうも対応してくれる可能性があるのかなあというふうに思いました。

○委員長（田原理香君） その辺、富田委員よろしいでしょうか。どうでしょうか。

○委員（富田牧子君） 例えば12月議会でやったときに、全部とは言いませんけど、来年どれだけかついて、2年で完了する計画ぐらいで、来年と再来年でつけるというスケジュールというのは可能なのだろうか、どうなんですか。来年つかなきゃ意味がないと思うな、私。

○議会事務局長（田上元一君） それは、逆にスケジュールリングの話というのは委員会の中できちんと、通常ですと、どんなスケジュールになるんでしょうかみたいなことも聞けると思います。間違いなく実施設計をしないとできないと思いますので、じゃあ設計費はきちんと来年にはとるとか、申しわけないけど次の年になってくる。それは、逆に言えば、それしかできないということならそれしか間違いのない話になりますので、そこもしっかり聞き出したほうが、そこをどこまでできるのかというのは、執行部としてもきちんと答えは持っていますので、間違いなく。そこも含めていろんな情報をそろえて、そこでどこを突いていくかというのを整理したほうがいいのかあというのは思います。

〔「委員長、暫時休憩をお願いします」の声あり〕

○委員長（田原理香君） 暫時休憩します。

休憩 午後3時03分

○委員長（田原理香君） 再開いたします。

ほか、どなたか御意見ございますでしょうか。

○委員（山田喜弘君） 委員の皆さんの意見を踏まえ、代表質問は12月をめぐり、今、川合委員からも提案のあった9月議会では予算決算委員会の分科会で提言をしていくと。

予算決算委員会の提言については必ず執行部としては回答を、どんなような予算をつけていくということを回答するので、それを踏まえて今、その回答は3月になるかもしれないですけども、今言った実施設計もせずに何かやれということも議会側としてはできないことなので、そこで1度、代表質問については9月は見送りながら、しっかりと調査をしてエアコンがつくような、本当に具体的に知恵を絞って委員会としてやっていったほうがいいというふうには僕は思います。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

ほかに御意見はございますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

ありがとうございます。

とにかく代表質問は12月をめぐりということ、9月議会の予算決算委員会の分科会のところ提言をしていくと。ただし、執行部に対しては、しっかりと回答をやはり求めていくということが頭にあります。

それから、そもそもエアコンを設置していただきたいということの気持ちは一緒ですので、ぜひそのために何をしなければいけないのかを、もう一度、正・副委員長のほうでも、あと執行部のほうともあわせて、ちょっと知恵を絞ってどういうふうに進めていくかを考えていきたいと思いますが、そういった方向でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

じゃあ、この件におきましては、代表質問のエアコン設置ということにおきましてはこれで終わりますが、今回、代表質問におきましては、実を言うと、先ほどから出ていますように、大項目の締め切りが次の月曜日というふうに変えて、なかなか調査研究ということができない現状が、これから毎年毎年、同じようなことがあるだろうというふうに思います。

今後、これは後からのまた委員会の中でもどういうふうに進めていくかということもありますけれど、例えばもっとこのことを代表質問で調査研究して将来的にやっていきたいねということであれば、またそれを後からの委員会の何をやっていくかということに合せて、皆さんからも御意見をいただきたいというふうに思っております。

代表質問につきましては、じゃあ今回、9月におきましてはなしということでもよろしかったでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

ありがとうございます。

ほかに御意見ないようですので、この件に関しては終了したいと思います。ありがとうございます。

ございます。

それでは、引き続きまして、協議事項の今後の委員会の進め方について議題といたします。まずは皆さん、教育福祉委員会の引き継ぎ事項をごらんください。

内容の再確認をしたいと思います。

まず1つ目、市立小・中学校の2学期制について注視していくこと。

この春から2学期制になりました。ぜひこのことについてどうなのか、どうだったのか注視していきましょう。

そして2つ目、地域包括ケアシステムの推進について注視していくとともに、調査研究を行うこと。

そして3番目、子育て健康プラザmano管理運営など、引き続き注視していくこと。きょう御説明にもありましたが、この3つについて引き継ぎ事項としていただいておりますが、これを引き継いでやっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、こういったことを頭に置きまして、これから話し合います委員会の視察のこと、各種団体の懇談会のこと、勉強会のことについても考えていきたいと思いますので、お願いいたします。

それでは先日、委員会の視察について皆さんにちょっとお伺いしましたが、先日、山口さんのほうから皆さんへの視察内容の希望、それから日程の御都合について出してくださいよということでお渡ししてありますが、こちらは8月22日までです。今のところ、市内におきまして、富田委員から市内障がい児福祉サービス事業の視察についての御提案もございました。それもあわせまして、市内・市外、そしてもちろんどこがいいかまだわからないけれど、このことについてはちょっと視察をするいいところはないだろうか、勉強するところはないだろうかということもあわせて、その用紙に書いていただけたらと思いますので、22日までをお願いいたします。

予定としましては、大体10月から11月の初めまでというところで委員会視察を考えておりますので、日程等のいいか悪いかもあわせて、皆さんから御意見をいただきたいと思えます。その御意見を参考に正・副委員長で検討したいというふうに考えております。

ということで、この件におきましてはよろしかったでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

今度の9月10日の常任委員会のときに皆さんに御提示していききたいと思いますので、締め切りのほうは守ってください。

次、これまで各種団体等の懇談会を設けてまいりました。昨年でいいますと、民生委員の皆様、それから教育委員の方々との懇談会を行いました。教育委員の懇談会では、そこで初めて2学期制を知らされるなど、さまざまなことがございましたが、非常に懇談会としても有意義なものでありましたが、ことし、各種団体との懇談会について、どうでしょうか。もっとほかとやりましょうか、この2団体とについてなどなど、皆さんから御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○副委員長（勝野正規君） せっかく2学期制になったので、教育委員じゃなくて現場の校長先生とか教頭先生、これは多分1年経過してみないとわからないので、年度末に校長会なり教頭会との団体との懇談会というか、どうでしたかと聞くぐらいになっちゃうかもしれませんけれども、それを取り入れていただけたらなあと思います。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

ほか、どなたか。

○委員（天羽良明君） 今、manoのお話なんかも聞いたんですけども、子育て支援を一生懸命されてみえるようなボランティアの方々とか意見交換できたらなあと思いました。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

ほか、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

毎年やっております民生委員さんにつきましてはいかがでしょうか。

○委員（富田牧子君） 毎年やっております。大体、毎年一緒でございます。冊子を配られまして、確かにいろいろ私たちも御苦勞をされていることを知ることが必要かもしれませんが、今度ぐらい飛ばして違う団体にしてもいいんじゃないかなあと思いますけど。民生委員さんがやりたいと言うのでしょうか。

○委員長（田原理香君） 実を言いますと、最近、民生委員さんのほうからよろしくお願ひしますみたいな話がありまして、やっぱり民生委員さんとしては、議員の皆さんに自分たちのふだんからの苦勞だったりとか情報共有だったりをしたいなあというお気持ちはわかりますけれど、皆さんいかがでしょうか。

○委員（川合敏己君） 暫時休憩で。

○委員長（田原理香君） 暫時休憩をお願いします。

休憩 午後3時14分

再開 午後3時16分

○委員長（田原理香君） 再開をお願いします。

○委員（川合敏己君） もちろん、民生委員さんのほうでぜひにということであれば、懇談会をさせていただくほうが僕はいいと思うんです。

もし今回やるに当たっては、もう少し本音の部分もお聞きしたいなあというのもございまして、できればこの教育福祉委員会のメンバーと民生児童委員の役員の皆さんと、執行部を抜いた形でやると、また少し深い話ができるのかなあというふうに、私個人としてはちょっと感じておりますので、そういった提案をさせていただきたいと思います。

○委員長（田原理香君） 今、民生児童委員さんと本音の部分で語り合うというところでの提案でしたけれども、ほかの委員の方、いかがでしょうか。

副委員長、いかがですか。

○副委員長（勝野正規君） 異議ございません。

○委員長（田原理香君） じゃあ、民生委員さんにおきましては毎年やっておりますことです

し、もし民生委員さんのほうからぜひということがありましたら、ぜひ膝を突き合わせた形で懇談会の場を持ちたいと思いますが、皆さん、よろしかったですね。

〔「異議なし」の声あり〕

じゃあ、今年度は民生委員さんのほうは一緒にやりたいと思います。

今、2学期制におきまして、勝野副委員長から校長先生や教頭先生とこの2学期制について、大体1年を終わったぐらいのところになるかと思いますが、懇談会の場を持つということ。それから、天羽委員のほうからは、子育て支援のボランティアをなさっている方々とお話をお聞きするのは、懇談会の場を持つのはいかがだろうかという御提案がありました。ほかございますでしょうか。

○副委員長（勝野正規君） 今、案が3つ出ているので、多分スキーム、スケジュールをつくっていくのに全部対応できていくかわかりませんが、1度、今度の9月の委員会のときまでに正・副委員長に任せていただいて、スケジュール、スキームをつくらせていただくということは無理でしょうか。

○委員（山田喜弘君） きょう出なかったとしても間に合うように、委員長・副委員長に、例えばほかの団体があれば申し出させてもらってもよろしいでしょうか。

○委員長（田原理香君） はい、もちろんお願いいたします。

先ほどの8月22日までの提出用紙に書いていただいても結構ですし、お願いいたします。

○委員（富田牧子君） 済みません。天羽委員の御提案の子育てのボランティアの方というのは、例えばどんな感じで、どんな話を聞きたいと思ってみえるのか、ちょっと聞かせてください。

○委員（天羽良明君） 全くなかった場合のというサブ的にちょっとイメージしていたところがありまして、実は10人ぐらいで、うちも双子なんですけれども、三つ子ちゃんとか、双子を妊娠したという形で、お父さん、お母さんたちが聞くと、育てていけるだろうかという、まず将来の経済的な心配とか、あとは旦那さんが仕事をしている中で、サポートがないと大変だろうということで、その部分を10人ぐらいのグループで一生懸命やってみえる方がちょっとありまして、もちろん市内の方もありますし、多治見市の方と一緒にあって、可児市のそういった御家庭をサポートしてみえるところがありまして、市のほうに認めてもらって部屋を借りてというところまでは全然まだ行ってなくて、それはためになることだと思って一生懸命やっついていっしょのかなあと思ったので、市のサポートがちょっと得られるといいかなあという部分も確かにあるんじゃないかなあというふうに私は感じましたので、議員のほうでちょっと話を聞いていただきたいというような要望をいただいているメンバーが少しありまして、具体的に、私もその代表者とお話をしていて詰めているわけではないんですが、そんなようなことも委員会で取り上げていただければ話を聞いていただきたいといったら、どこに話を聞いてもらったらいのかなあと思った場合に、こういう関係する委員会で聞くことができないかなと。

簡単に聞いているのは、5人でお邪魔して聞いてもらってもいいですし、10人最大おり

ますので 10 人で提案というか、こんな活動をしていますという説明ができるように準備してというところまでは聞いておりました。

○委員（富田牧子君） よくわかりますけど、委員会で聞くということは結構大きいことで、懇談するというは。そういうグループ、もっとほかのグループ、いっぱい子育てのことでグループがあって、それぞれ出てきていただいて私たちがお話を聞くということは大変意義があると思うんですけど、1つのグループに特化するということは、やっぱり委員会の性質上、余り好ましいことではないような気がするんですけど。

○委員（天羽良明君） ですから、一つの子育てグループということで、私もそこで限定するつもりはないんですが、m a n o も子育てに力を入れていくような状況になっていますので、どういったグループでも全然構わない中の意見をさせていただいたわけですけども。

○委員長（田原理香君） 先ほど言いましたように、ほかに懇談してみたいなあというところがおありだと思いますので、また紙に書いていただきまして、副委員長と一緒に、今の天羽委員の子育て支援のボランティアをしている人たちのこともあわせて、検討したいと思いますので、またほかあればお聞かせください。

○委員（川合敏己君） 僕も富田委員と実は同じ意見で、例えば特定の、本当に市の支援も受けていない活動グループとの懇談というのは、それよりももう少し優先順位の高いグループがあるのかなあというふうに、ちょっと私自身も思いますので、やはり委員会として時間を設けて懇談をするということであれば、先ほど天羽委員がおっしゃられたようなグループというのは、ちょっとそぐわないのかなあというふうに思いますので、そういったところは私は除いて検討していくべきではないかなあ。委員長・副委員長のほうでセレクトする際には、そのようにお願いしたいと一つの意見です。

○委員（天羽良明君） ありがとうございます。

そうですね。私もちょっとお話をしっかり聞いているわけじゃないので、今現在、市のほうでお世話になっている部分もあるのかわかりませんが、僕はまだ余りしっかりは得られていないというふうに言いましたけど、その辺の情報も全くないので、私もちょっと調べてタイアップしてみるところであれば推薦させていただきたいと、選択肢の中に提案したいというふうに思います。

○委員長（田原理香君） ありがとうございます。

いずれにしても、先ほど川合委員や富田委員からの御指摘がありましたように、特定の団体、個人団体というところにおきましては、やはりこの委員会としては、そういう懇談会をするという対象にはならないと思いますので、その辺も考慮いたしまして、副委員長と相談して皆さんに御提示したいと思います。

あと、こういった懇談会や視察につきまして、あとほか、もうこれで終わるわけですが、何か御意見とかお考えとかございますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

それでは、ちょっと最後に私のほうから1つ、こういったことがどうでしょうかというこ

とで、ちょっと提案を1つだけございます。

今、引き継ぎ事項におきましても、地域包括ケアや子育てのこと、それから2学期制のことがありまして、あと教育福祉委員会としてもこのメンバーで一緒になって勉強していきたいというふうに思っておるわけでございますが、例えば1つ、勉強していくということ、研修に皆さん、それぞれ個々であるテーマを決めて東京へ行かれたり、大阪へ行かれたり、研修をなさっておられますが、例えばこの教育福祉委員会でも1つ、みんながそれぞれのところへ行くのはあるんだけど、こちらに講師の方をお招きしてこのテーマについてお聞かせいただくと、みんなで勉強をします。それは、教育福祉委員会の方だけではなく、ほかの議員の方ももちろん御参集すればいいかと思いますが、そういうみんなでここでの勉強をするということにつきまして、ちょっと今回、可能だったら設けたいなあというふうに思いますが、そちらにつきましては皆さん御意見いかがでしょうか。

〔「賛成です」の声あり〕

○副委員長（勝野正規君） 賛成でいいんですけども、それというのは、教育福祉委員会のほうでテーマを設定したものを議会運営委員会なり、議長なり、こういうことで全議員を対象とした講師を招いた講習、講演会をやっていたきたいという旨を申し出るんですか。

○委員長（田原理香君） こちらの教育福祉委員会から議会運営委員会のほうへ発案いたしまして、こういう勉強会、研修会を開きたい、そしてできればこういった、具体的にこの講師の方をお招きしたいので、皆さん全員で勉強する、研修するというところで御提案をします。議会運営委員会の中で提案をしていく、議員研修会という形になろうかと思いますが、そういったことを考えております。

林委員もよろしいでしょうか。

○委員（林 則夫君） 結構です。

○委員長（田原理香君） それでは、山田委員も天羽委員もオーケーですか。ありがとうございます。

じゃあそういう中で、ことしも平成30年度教育福祉委員会も、このメンバーで一緒になってしっかりと、先ほどのクーラーの設置の件もあわせて、知恵を出し合ってクーラー設置に取り組んでいくということ。そして、3点の引き継ぎ事項についてしっかりと勉強して進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

それでは、以上で本日の案件は全て終了いたしました。

そのほか、何かございますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

なければ、以上で教育福祉委員会を閉会したいと思います。

閉会 午後3時29分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 30 年 8 月 10 日

可児市教育福祉委員会委員長